

1、目標

福祉会の理念について学び・考える、伝え合いを大事に、子ども・職員・保護者の悩み、困り感の共有、視野を広く・職員間の連携、各年齢の発達を学ぶ、職員・保護者とコミュニケーション
子どもの願いを遊び活動へ繋げる 職員集団での支え合い 助け合い 柔軟な考えで楽しく保育
新しい事へのチャレンジ 集団給食の中でどのようなことが出来るのか学び・実践、安全に安心して過ごせるよう環境整備、園全体の運営に目を配る、保護者に園児の健康状態やホームケア等の知識を伝える 等

・上半期自己評価

子どもが安心して生活できるよう表情を柔らかくして関わり、歌を歌いながら楽しい雰囲気を作ってきた。中堅の職員が考えて、行動を起こす姿が心強い。職員間で連携は意識的に行ったが、「大丈夫です」の裏側の思いのくみ取りや察することの難しさを感じた。こどもたちの「やりたい」願いを一緒に計画して楽しむことが出来た。前向きに、声を掛け合う、助け合う、共感し合うことがもっと能動的にできるといい。一点だけで見るのではなく、いくつかの視点を持つことの大切さ。保護者に園での子どもの姿を丁寧に伝えることが出来た。保育の振り返りをクラス職員間で出来ないこともあった。

今後の課題・目標

- ・上半期の目標の継続（複数）・子どもの自己決定を大事にする。
- ・日常の何気ない会話、雑談からコミュニケーションをとっていく。 ・心と身体に余裕を持つ
- ・家庭の様子をつかみながら子どもたちを見ていく。・描画、リズム等、後輩にも伝えていく。
- ・「たいへん」「たすけて」がいえる空気を大切にする。 ・大人の都合ではなく子どもの気持ちに寄り添った保育を心掛ける。

4、下半期自己評価

- ・理念検討委員会を立ち上げ、中堅の職員や主任を交えてたくさん語り、意見交換、共有することができた事は本当に良かったと思う。
- ・コミュニケーションは取ってきたが、自分が普通だと思える言葉も相手を傷つけてしまう、とげのある言葉に聞こえる等難しさを感じた。
- ・主体性を考えながら、今の子どもたちに大事なこと、葛藤からの立ち直りなど目の前の子どもの姿を見ながら関わりを考えてきた。子ども太氏に任せることで、個々の持っている力を出し合いかんがえて作り出す場面に出会え、考える力、遊ぶ力など経験として積み重ねてきた力となった。
- ・クラス・以上児で遊ぶ・生活する中で子どもの願いと大人の願いを含めたやりとり、その場での折り合いや響きあいが保育の中で生きるようになってきた。自身も一歩ずつ成長出来ているようで、

子どもと一緒にだと改めて思う。

- ・他クラスと交流する際に、他クラスの先生に頼りすぎている自分を感じた。もう少し自分にできることを挑戦していきたいと思った。
- ・みんな頑張っている中で、「大変」「助けて」ということに難しさを感じた。忙しくなると「あと一言伝えられたら…」と思うこと合増えるので、意識的に声を出していきたい。その反面、生活発表会ではいろいろな先生に助けてもらい、ありがたかった。本当に感謝している。
- ・生活発表会舞台の雰囲気がとても心地よく、子ども、担任の思いとイメージが一つになり楽しむことが出来た。子どもの成長をと、自身も手応えを感じ、「一年頑張った、楽しかった」と思えた。後輩とも共有でき、この経験から大事なことを感じてくれていると願いたい。
- ・時短勤務をさせてもらう中で、無理なく復帰することが出来た。自分の中での工夫や意識より、周囲に支えられて目標を達成することが出来た。
- ・職員間で意見が違う時、相手の意見を肯定的に捉えられず、相手にとって気持ちよくなかったと感じることがあった。相手の思いを尊重し子どものためにクラスとして気持ちよく過ごせる雰囲気づくりを大切にしていく。
- ・担任間のコミュニケーションの取り方について考えさせられた。日々の保育を考え、振り返ることが大切と分かっているがどこか独りよがりになっていたと感じる。
- ・2才児は以上児との関わり、場所や玩具の使い方等、以上児との連携も必要で1Fにいると分からないことも多かったので勉強になった。
- ・子どもと同じ目線に立つことや相手の思いを知る大切さをより一層感じた。
- ・活動の節目の声かけや切り替えが苦手だった。子ども自身が考えられるようになったこと、自身との信頼関係を築けてきたからか、前よりも自分の声が届くようになった。
- ・クラスを引っぱって行く遊びを見つけるのが苦手、他の先生の技も見て学び吸収し“この人が前に立つと楽しいことが始まる”というワクワク感や期待を誘えるような関わりを持てるように努力。
- ・子どもの気持ちが切り替えられるよう言葉かけや提案、行動の引き出しを増やし、個々に合った関わりを試せるよう努力する。
- ・ほかの保育者の関わり方が参考になった。
- ・症例を通して学ばせてもらっている。高所からの転落が発生したが、大事に至らずほっとしている。これを機に転落時の対応について職員全員に周知する。
- ・作業の効率化はまだ改善ができるように思う。次年度の課題とする。
- ・子どもたちが安心して過ごせるよう・丁寧に関わられた。甘えたい時や心細い時にそばでそっと寄り添える存在でいようとした。
- ・保育士として自分の指導力の無さや魅力的な環境を設定する難しさを痛感した。
- ・複数担任の場合、職員間の連携がうまくいかず、誤解が生じてギクシャクしてしまうことも多い。お互いに認め合い、違いを受け入れる努力は必要と感じた。

5、その他

- ・時々立ち止まっても前を見て頑張っていけば開けていくのだな…と実感した。
- ・体調不良（心身）のあった一年、体力つけなくては…と思う一年…、願いと気持ちがかみ合わない

…でも必死に…そんな一年でした。

- ・職員集団作りにおいて反省も残るが、その分、今いる仲間たちは信頼やつながりが深まっているように感じ今後も楽しみになっている。そのために、みんなで保育の何を共有してどういう方向で学び合っていくかを話し合っていけるといい。
- ・キャリアアップ研修を受け、保育所・保育指針の言葉などを今までより深め、視野を広げることが出来良い学びになっている。
- ・毎日葛藤もあるが、“楽しい”と感じる瞬間が増えた。
- ・体がしんどいと心もしんどい、心もしんどいと体に影響があり難しい、いろんな場面でいろんな人の助けを借り、前に進んでこられたことは感謝。
- ・うまくできなかつたと落ち込む日も多いが、反省して悩んだ分、また一つ学びが増えていると感じている。できない自分も認め、今の自分だったら何ができるかな、次はどう活かすか考え保育して小さなことでも自分を褒めるようにした。他者ではなく過去の自分と比べ、できるようになったことを見つけるともっと頑張ろうと思えた。
- ・体調を崩し、医師に転職を勧められたが、園長先生を始め職員の皆が働き続けられるよう受け入れてくれ、感謝している。
- ・自分の中にため込んでしまうことがあったので、疑問に思ったことは質問し相談し、意見を共有して、もっと自分の意見や考えを持てることが大切。
- ・職員同士とても思いやりがあり仲良し（園長の温かさと愛が感じられる）が一番！
- ・お便りや出欠席をアプリで管理できると修正や出欠の整合性が簡単になるのでは。事務も軽減されるかも（プリント折る、連絡帳に挟むがなくなる。
- ・降園が19:01～19:14の間になると、勤務しているが賃金が発生しない状態を見直してほしい。